

演題番号：1

演題名：*Actinobacillus pleuropneumoniae*による多発性肉芽腫性肝炎の病理学的検索

発表者：○阿左美有右 沓澤史絵 安里優子 嘉数明日香 中村正治 田端亜樹
発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

Actinobacillus pleuropneumoniae (以下 APP) は豚胸膜肺炎を引き起こすグラム陰性桿菌で、15 の血清型が知られており、日本では 2 型が最も多い。これまで APP の病変は胸腔内に限局しているものと考えられていたが、近年、肝臓にも病変形成のある症例が報告されるようになった。今回、当所でも APP が原因と考えられる多発性肉芽腫性肝炎が複数の豚に認められたため、その病理学的検索について報告する。

2. 材料及び方法

平成 24 年 2 月から同年 11 月までの期間に当所管内と畜場に搬入され、内臓検査で肝臓に多発性結節が認められた豚 5 症例について、全症例の肝臓及び症例 2, 4, 5 の肺、脾臓、各リンパ節を材料として組織標本を作製し、HE 染色、グラム染色、PAS 染色及びチールネルゼン染色を実施した。次に組織学的に病変のみられた部位について、抗 APP2 型抗体を用いた免疫染色を実施した。さらに症例 4 の肝臓と肺、症例 5 の肝臓と肝門リンパ節については、組織切片より DNA を抽出し、APP2 型に特異的なプライマーを用いた PCR 法を実施した。また全症例の肝臓の肉眼病変について、類似疾患であるサルモネラ症や抗酸菌症との鑑別を目的とした回顧的観察を実施した。

3. 結果

全症例の肝臓及び症例 5 の肝門リンパ節は、組織学的にアクチノバチルス属感染の特徴的所見であるアステロイド体形成を伴った多発性肉芽腫性炎からなり、アステロイド体は PAS 陽性、グラム陰性桿菌を少数含んでいた。症例 2, 4 の肺には、グラム陰性桿菌を多数含んだ慢性化膿性炎が認められた。これらの病変は免疫染色で抗 APP2 型抗体に陽性を示した。症例 4, 5 で実施した PCR 法では APP2 型遺伝子の増幅産物が確認された。

肝臓の肉眼病変については、全症例で結節が不均一に分布しており、肝臓全体に均一に結節が分布するサルモネラ症や抗酸菌症とは異なっていた。また結節に硬結感や表面への隆起があること、結節周囲に間質性炎や出血を伴っていることなども特徴的であった。

4. 考察及びまとめ

組織所見、免疫染色及び PCR 法の結果から、今回の病変はいずれも APP2 型が原因であると考えられた。特に免疫染色の結果は良好であったが、PCR 法の場合は病変部が小さいと検出は困難と思われた。肝臓の肉眼病変については、結節の分布の仕方が最も特徴的であった。その理由として、門脈経由で侵入してくるサルモネラ菌や抗酸菌は肝臓全体に均一に結節を形成するのに対し、APP は肝動脈を経由することで不均一に結節を形成していると考えた。肉眼病変の特徴をつかむことはと畜検査の現場における迅速な判定に繋がるため、今後も調査を継続し、APP の病態について明らかにしていきたい。